専門研修プログラム名	西八王子病院　精神科領域専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人社団　明和会　西八王子病院	
プログラム統括責任者	高島宗也	

専門研修プログラムの概要	精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献することを理念とする。また、患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。　本施設群は西八王子病院を基幹施設とするプログラムであり、５の施設群から成り立っている。研修基幹病院は、東京都西部の緑豊かな立地にある八王子市の西八王子病院である。地域に密着した医療を提供し、主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶ。また、うつ病治療に特化したストレスケア病棟における治療を実施している。同法人に、精神科クリニック２施設を有し、休職者の復職及び求職者フォローの精神科デイケアを行っている。さらに、自立訓練事業所も併設している。一方で、連携病院の東京医科大学病院メンタルヘルス科では、思春期症例、人格障害、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン精神医療の症例は豊富であり、特殊な領域（睡眠障害、措置入院）以外幅広い臨床経験ができる。東京医科大学病院八王子医療センターは、総合病院の精神科で外来、入院、リエゾンの研修を経験できる。丸山荘病院、中山病院、長谷川病院はそれぞれ地域に密着した病院であるとともに、措置入院の受け入れも積極的に行っている。それにより、アルコール薬物依存症など基幹病院でカバーしきれない領域はこれらの病院にて経験を積むことができる。また、常勤医として出張することで経験を積むこともできる。基幹病院で経験できない措置入院の症例を経験することにより、精神科専門医だけでなく精神保健指定医の症例に事欠くことはない。典型的なローテーションパターンとしては、はじめの２年は基幹病院に在籍し、週4～5日の日勤及び週1回程度のオンコール業務につく。希望にて３年目以降に連携病院をローテートして研修することが可能となっている。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	基幹病院で精神医学全般にわたる基礎研修中は、指導医の指導を受けながら、様々な精神疾患について自立して診断し、治療計画をたてられるような研修をうける。基本的には当院の理念である「患者さまの人権を尊重し、患者さまと共に考え、共に生きる」を重視した教育を行う。さらに医師以外の看護師、心理士、精神保健福祉士、介護士、作業療法士、理学療法士など各職種とのチーム医療の実践を行う。これらの研修の質を高め、臨床能力を高めるために、臨床実践にすぐれた指導医が研修指導をリードする。さらに、５つの連携病院を擁することにより、児童、依存、救急、社会精神医学、産業精神医学、精神科リハビリテーションなど精神医学サブスペシャリティ領域を学ぶことができる。	
	修得すべき知識・技能・態度など	精神医学全般、すべての精神疾患に対する十分な診療的理解を獲得し、正しい心理社会療法、薬物療法を指導医、研修病院の診療体制から学ぶ。つねに患者と家族によりそう優しい態度を修得し、こころに寄り添う専門治療を重んじる。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	精神科あるいは他科でのカンファレンスに出席し、患者・医師・看護師・家族などの関係について適切な精神医学的な助言を行い、問題解決に協力することができる。指導医とともにカンファレンスに参加し、経験を積む。

専攻医の到達目標	学問的姿勢	臨床現場における日々の診療が最も大切な研修であり、専門研修指導医は専攻医が専門研修施設群内で十分な学習ができるよう指導するとともに、専攻医が主体的に研修に取り組む姿勢を涵養する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	以下のコアコンピテンシーを到達目標とする。患者や家族の苦痛を感じとれる感性を錬磨し、苦痛を和らげるための努力を続ける姿勢。コミュニケーション能力を向上させて、チーム医療に積極的に参加し、必要に応じて適切なリーダーシップをとれる姿勢。情報開示に耐える適正な医療を行う姿勢。謙虚さと厳しさをもった自己研鑽の態度。インフォームド・コンセントを実施できる。後進の指導ができる。科学的根拠となる情報(EBM)を収集し、それを臨床に適用できる 。 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習の姿勢を身につける。症例呈示と討論ができる。学術集会に積極的に参加する
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目、2年目は精神医学の基本を基幹病院で学ぶ。3年目以降に連携病院で基幹病院とは異なる地域医療、サブスペシャリティを学ぶ。
	研修施設群と研修プログラム	基幹病院を中心に、５つの連携病院での研修を加えることにより、より多方面から偏りのない精神医学の素養を獲得する。専門医資格を修得後も基幹病院・連携病院でさらに研鑽をつんでいく。
	地域医療について	基幹病院は東京都にあるが、都下八王子市であり、3年目に研修する連携病院の多くも東京都外の「足下充足率が0.8以下の県」にあり、地域医療を必ず学ぶことができる。
専門研修の評価	様々な専門の専門研修指導医が、“知識に関する評価”と“技能と態度(医師としての態度や社会性を含 む)に関する評価”を集団で行い、評価が偏らないようにする。	
修了判定	研修プログラム統括責任者は、研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医および研修プログラム全般の管理と継続的改良を行う。
	専攻医の就業環境	法定の労働時間を守り、専攻医が過労におちいらないように配慮する。有給休暇は十分につかうことも奨励する。
	専門研修プログラムの改善	研修プログラムの作成や、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。
	専攻医の採用と修了	専攻医であるための要件として、日本国の医師免許を有すること、初期研修を修了していることとする。この条件を満たすものにつきそれぞれの研修施設群で、 専攻医として受け入れるかどうかを審議し、認定する。研修の結果どのようなことができるようになったかについて、専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。その際の修了判定基準は到達目標の達成ができているかどうかを評価することである。

	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	個々の専攻医の事情で、プログラムの移動、休止・中止、プログラム外研修が必要になることがあるが、できる限り柔軟に対応する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	定期的に連携病院の研修指導責任者と連絡をとり、専攻医の研修について情報交換し、足りていない点を改善する。適宜連携病院をプログラム統括責任者が訪問する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	高島宗也（病院長　当プログラム管理者）長坂省三（副病院長）佐藤光彦（精神科部長）水尾弘司（精神科）	
Subspecialty領域との連続性	基幹病院でもリエゾン、社会療法、精神科リハビリテーションを学ぶことが出来るが、さらに連携病院で、精神科救急、認知行動療法、を学ぶことが出来る。	